

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 12 号
令和 2 年 7 月 9 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察注意報第 3 号を下記のとおり発表したので送付します。

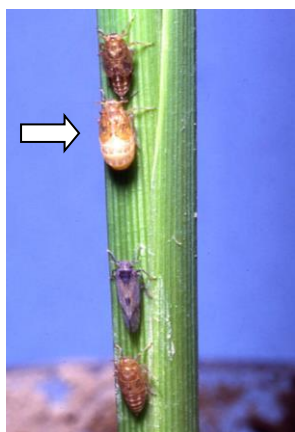
令和 2 年度病虫害発生予察注意報第 3 号

令和 2 年 7 月 9 日
岡 山 県

病虫害名 **水稻 トビイロウンカ**

1. 発生が予想される地域 県下全域
2. 発生が予想される時期 7 月～10 月中旬
3. 予想される発生量 多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 県病虫害防除所による 7 月 6～8 日の巡回調査によると、**発生圃場率は 30.0% (平年 1.0%)、すくいと 20 回調査による圃場あたり虫数は 0.33 頭 (平年 0.01 頭)**と、いずれも **過去 10 年で最も高く、県下全域で飛来が確認されている。**
 - (2) 7 月上旬に発生を確認したのは、直近 10 年では、多発した平成 25 年、令和元年の 2 回で、**本年の発生時期は早い。**
5. 防除対策及び防除上の参考事項
 - (1) **基幹防除を徹底する。***
 - (2) 本虫は圃場内で局所的に生息するため、**圃場の中央部まで入りながらなるべく多くの株元をよく観察する。**
 - (3) 粉剤、液剤の薬剤散布に当たっては、**薬剤が株元まで十分到達するよう留意する。**また、粒剤の場合は、湛水状態で粉剤、液剤に比べ 7 日程度早めに散布する。
 - (4) 薬剤の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、**収穫期が近い場合の薬剤散布は、特に農薬使用基準の収穫前日数をよく確認**して行う。
 - (5) 飼料用米、WCS については、「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」等に沿って適切な農薬を選択し、適期防除に努める。
 - (6) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vt11m000.html>) で確認できる。

※基幹防除：移植時の苗箱処理及び出穂前防除



成虫（体長約5mm）
（矢印は短翅型雌成虫）



株元に集中して生息



圃場の被害（坪枯れ）

表 水稻におけるトビイロウンカの主な防除薬剤

（令和2年7月9日現在）

薬剤名	農薬使用基準			IRAC コード 注2)
	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用濃度・使用量	
キラップフロアブル キラップ粉剤DL	収穫14日前まで 収穫14日前まで	2回以内	1,000～2,000倍 3～4kg/10a	2B
トレボンEW ¹⁾ トレボン乳剤 ¹⁾ なげこみトレボン ¹⁾	収穫14日前まで 収穫14日前まで 5葉期以降収穫21 日前まで	3回以内	1,000倍 1,000～2,000倍 水溶性容器10個/10a	3A
トレボン粉剤DL ¹⁾ トレボン粒剤 ¹⁾	収穫7日前まで 収穫21日前まで		3～4kg/10a 2～3kg/10a	
MR. ジョーカー EW ¹⁾ MR. ジョーカー粉剤DL ¹⁾	収穫14日前まで 収穫7日前まで	2回以内	2,000倍 3～4kg/10a	
ベストガード水溶剤 ベストガード粒剤	収穫14日前まで 収穫14日前まで	4回以内	2,000～4,000倍 3～4kg/10a	
スタークル・アルバリン粉剤DL スタークル・アルバリン顆粒水溶剤 スタークル豆つぶ スタークル・アルバリン粒剤	収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで	3回以内	3kg/10a 3,000倍 250～500g/10a 3kg/10a	4A
ダントツ粉剤DL ダントツ水溶剤 ダントツ粒剤	収穫7日前まで 収穫7日前まで 収穫7日前まで	3回以内	3～4kg/10a 4,000倍 3kg/10a	
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	2,000倍	

¹⁾ の薬剤は水産動植物に対する危害が発生しやすい地域及び発生するおそれのある地域では使用しない。

²⁾ IRAC コードによる農薬有効成分の作用機構の分類

・農薬容器のラベルをよく読み、各単剤の有効成分を含む農薬の総使用回数を守る。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

